



YES 通信



〒819-1116 糸島市前原中央2-2-22波多江ビル2F 電話 321-4119 2022年7月号

「検定」を有効に活用しよう!!

いよいよ来月、漢字検定と数学検定を実施します。

漢字検定は7回目、数学検定は3回目となります。

今回はその検定をいかに有効に活用するのか？塾と

教育という会報誌に漢字検定協会、数学検定協会、

英語検定協会、思考力検定の主催者である好学出版

の方々の座談会の特集がありましたので、そこから

抜粋してご案内させていただきます。

まず受験者数の動向ですが、少子化の中コロナ以

前の受験者数にどの検定も戻ってきているこの事で

した。その要因としては、**入試優遇に活用する大学が**

増えてきていることが挙げられます。英語は入試に民

間試験を導入すると3年程前に話題になったので記

憶に新しいと思いますが、数学検定も国立大学の1

般入試で入試優遇として使われ始めていて、今後そ

の流れが加速していきそうだとこの事でした。その要

因としては共通テスト数学の難化にあるそうです。

昨年の共通テストの数Ⅰ・A、数Ⅱ・Bのいずれ

も平均点が低く、以前は満点の受験生が続出して

たトップレベルの高校でも満点を取る受験生が激減

しているのです。つまり、数学では力の差が出てく

いため、この流れを受けて共通テスト利用していた

私立大学も検定にシフトしてくる大学が増えるだろ

うこの事でした。

また、高校の調査書の様式が変更されていることも

検定の追い風になっています。以前は部活や資格検

定の記載欄がまとめてひと枠でしたが、現在は「資

格検定」の枠が各学年に設けられています。これは検

定に注目しているという大きなメッセージになって

います。糸島エリアでも昨年から高校入試で特色化

選抜の枠が急拡大しているので、自己アピールする

うえで大きなポイントになりそうです。

入試における検定の評価について大学側を調査し

た結果、「**「コンソツ学習した姿勢を評価する」**との回

答がありました。主体的に学習してきた証として認

め、評価あるいは参考にする大学は少なくありません。

学費免除や試験を免除する大学も出て来ていま

す。

特に高校から大学への学校推薦は、客観的な指標

で選抜しなければならないため、検定を取得してい

ることで、学校側は後押ししやすくなるこの事でし

た。このようなメリットがあることをぜひ知ってお

いて欲しいと思います。今の小学生が大学受験をす

る頃にはもっと検定の活用が進むのではないかと考

えています。

検定に関してはこのようなメリット以外にも学習

ツールとしてのメリットがあると私は考えていま

す。勉強に関しては通常の学習と復習があるのは皆

さんご存じだと思います。復習をしっかりとやるこ

とで学力の定着が図れるのですが、なかなか復習を

する機会がありません。夏休みの課題くらいなもの

です。塾では必ず夏期講習や冬期講習という名目で

復習をします。これは学力を定着させるうえでとて

も重要だからです。

塾に通っていない生徒の中には、小学生の時は出

来ていたのに中学のテストで全然できなかったとい

う場合があります。小学校のテストは授業後にすく

テストがあるのでその時は出来ていても、定着して

いないのですぐに忘れてしまつたのです。

そのために復習をして欲しいのですが、なかなか

目標が無いと取り組めるものではありません。そこ

で検定を受験するという方法があります。検定はあ

る程度学年ごとに級が設定されていますので、その

都度受験をしていたら。入試前に慌てて復習する必

要性がなくなります。特に受験でも重たい科目であ

る英語や数学がしっかりと復習が出来ていると受験前

に相当余裕が出てきます。また合格が目標だとやる

気も出てくるので最適な復習になるのではないかと

考えています。

昨年、筑前を推薦で受験した生徒は高校範囲の英

検準2級と数検準2級に合格していました。高校の

予習が出来ているので高校ではかなり上位に行くこ

は思っていました。何とその生徒は学年5位の成

績を取ったそうです。得意科目は予習に活用して高

校での上位を目指す作戦にも活用出来てつづです。

やる気相談室

論理

大人の論理でもの事を判断していませんか？

小学生がアイデアを出して開発したランドセルが物議をかもしたことをご存じでしょうか？

小学生がランドセルを軽くするアイデア商品（ランドセルに装着するとランドセルがキャリアバッグのようになる商品）を開

発したら、心ない（？）大人たちからの外れな大バッシングを受けた。その的外れな指摘に、ズバズバと射た反論をする子どもたちの様子が爽快だ。という内容です。今回、詳細は省略しますのでネットで検索してみてください。

その記事を見て正直悲しくなりました。確かにそのランドセルの性能には賛否両論あっても構わないのですが、せっかくの創意工夫を何故称賛できないのか？これでは新しい発想も生まれるはずはありません。

普段は「自分の頭で考えなさい」「言われたことしかできないようではダメ」なんて言うくせに、いざ自分で考えて、主体的に行動したらこのような批判をする。どうしても、その発想力や行動力を褒めてやれないの不思議でなりません。

私たちが似たようなケースに出くわすことはあるでしょう。そのとき、つい「大人の論理」で子どもたちを責めたり、可能性の芽をつぶしたりすることがないようにしたいものです。

例えば、英単語の書き取り演習を10回やってきなさい、と宿題を課したとします。しかしその生徒は、5回しかやってきませんでした。理由は「もうこれ以上書かなくても、完全に覚えたから」。このとき、10回という言いつけを守らなかったことを責めるべきでしょうか？それとも、5回でちゃんと覚えた要領の良さを褒めるべきでしょうか？

書き取り演習の目的が知識の定着であるなら、そこをミッションコンプリートした

なら、書き取りの回数自体は問題ではありません。ミッションは10回書くことではなく、その英単語を覚えることだったはず。それなら褒めてあげればいいわけでは？「言いつけを守らなかった」「約束を破った」などと叱られては、子どもたちがっかりです。せっかく短時間で英単語を覚えただのに、褒めてもらえるどころか叱られたわけですから。

しかし、「面倒くさくても10回書くことが大事」という謎の精神論を持ち出す人もいるかもしれませんが、この瞬間、子どもたちにとって楽しかった勉強も「作業」に変わってしまいます。本来、「学ぶこと」「知ること」は楽しいことのはずなのに、大人がそうさせなくしているのです。

そういう意味で言うと、「頑張って勉強すること、精神的に成長する」というのは、私たち塾人も学校の先生もよく口にしながら、理屈としては正しいのかもしれませんが、勉強を精神修行の場にするこ自体がおかしいのかもしれない。

書籍紹介 心に響く小さな5つの物語 藤尾 秀昭 文 片岡 鶴太郎 画

初めて訪問した「糸島の顔がみえる本屋さん（通称：糸かお）」（前原中央3丁目2・14）で、私の母校である佐世保北高の九大生が出品していたこの本を手にとったことがきっかけです。最近インターネットばかり本を買うので、自分が欲しいと思う本を買うことが多いので、どうしても本の趣味が偏りがちでした。しかし、100名近くのオーナーさんがお勧めする本の中から探すとなると、人のご縁を感じずにはおれません。今回は高校の後輩の九大生がどんな本を読んでいたのか気になってしまい購入した次第です。この本は人間学を採求する雑誌で有名な、致知出版の編集長を長年務められている藤尾氏が文章を書かれ、絵は、片岡鶴太郎さんがこの本の文章に共感なさったことで書かれることになったそうです。簡単にサクッと読めて本のタイトルにもあるように心に響く物語が5つ収録されています。帯にあるように涙が出てくる文もあり心が洗われる気がしました。勉強や仕事も大事ですがこのような本を読んで心を成長させることが改めて大切なのだと感じました。このような本を読むことで幸せな気持ちを感じる力がつきます。いくら勉強が出来る様になっても仕事で成功しても幸せを感じる力がないと人生を楽しめません。図書館にあるので読んでみてください。

